

貝塚市立二色小学校 校長室だより 第84号
H25年12月2日発行 貝塚市二色1331
Tel 072-438-2925 Fax 438-2926

赤白



11/30(土)コスモス
シアターにて

皆さんも一緒に言葉について考えてみませんか？

第2回少年の主張大会

刃と言葉

二色小学校六年 大野 優芽

私達は今、色々な人達と言葉を使ってコミュニケーションをしています。生活の中で言葉は欠かせないものです。でも言葉には人を傷つける悪い言葉と人を幸せな気持ちにさせる良い言葉があります。

少し前、こんなことがありました。私が国語の教科書を忘れ心の中でどうしよう！

と思い困っていた時、近くの友達が、

「見る？」

と声をかけてくれました。私は

「うん、ありがとう。」

と見せてもらいました。その時はとてもうれしくありがとうの気持ちでいっぱいでした。また別の日、私が何かをするのにおそくてあせっていた時、友達が、

「天じようぶ、待てあげるから。」

と待ててくれました。

この時の友達の見え方、「という声かけや天じようぶ」という言葉によって、あわててあせっていた私の気持ちが落ち着き、うれしい気持ちになりました。

もしこの時、「え？忘れてきたん？」早くしてよ！もう、おそいなあ！」と言われていたらどんなにくやく悲しかたでしよう。

言っている人は軽い気持ちで言っただとしても、相手にはきつく感じられとても傷つくことになります。さらに、「アホ」や「うざい」、「だまれ」などの言葉は、ちよどしたきりかけでもほとんど言い合になていき、止まらなくなったりします。

ですから私はできるだけ人に言われてやな言葉を使わず、人が良い気持ちになり喜んだりする言葉を使うようにしたいと考えています。

人間は、原始時代から言葉を使うようになったそうです。言葉を使えなかつた人間がどうして使えるようになったのか、考えてみましょう。初めは身ぶりや手ぶりで伝えていたかもしれませんが、どうしても自分の気持ちを他人に伝えたくて、言葉を使うようになったのではないのでしょうか。もし今までも人間が言葉をしゃべってなかたら、今ごろ世の中はどうなっていたでしょう。今の様な町や社会はきどなくて、みんなバラバラになっていたと思います。なぜなら、言葉は自分の気持ちを相手に伝えて、人と人をつなぐ役割を果たしているからです。

そんな大切な言葉なのに、もし人間が悪い言葉だけを使っていたとすれば、世の中、ケンカばかりですぎずして、社会は退化していたと思います。だからこれからも良い言葉を使ってコミュニケーションをすれば、この世界はもどよくなるし

平和にもつながると思います。

そしてもう一考えた大切なことがあります。それはふだんの言葉使によて、その人の人間性がつられるところとです。

ふだんからきれいで優しい言葉を使っている人は心もきれいで優しいと思います。「ありがとう」「うざいね」などの言葉を使う時、人は自然に笑顔になります。だから良い言葉をよく使う人は気持ちが豊かで心にゆとりがあり、他人に優しくすることが出来るのだと思うのです。

逆に、いつも悪い言葉ばかり使っている人はどうでしょう。怒り顔や人をにらんだりしてないでしょうか？悪い言葉ばかり使っていると、どんどん心はきたなくなり、周りの人からもさらわれて、友達もいなくなってしまうと思います。だから、きれいで優しい言葉づかいで、人と会話することはとても大事だと思います。

これから私達はどんどん大人になり外国の人と関わる機会も増えてくると思います。そんな時私は言葉の大切さを思い出し、例え言葉が十分に通じなくても、相手の気持ちを思いやり、豊かな気持ちで接し、きちんと自分の思いを伝えていきたいと思っています。

貝塚市の小学生十一人の主張はどれも自分の体験を元にした素晴らしい発表ばかりでした。そんな中でも、ゆつくり丁寧で、言葉を大切にされた大野さんの発表に、会場から大きな拍手をいただきました。そして、発表し終わった大野さんですがすがしい表情をしていました。よくがんばりました。